

学校だより

令和3年7月20日

No.4



ふじ美が原

富士見中学校



一学期を振り返って

一年一部 村上 深雪

新しい友達、新しい先生、新しい中学校生活。不安な気持ちで始まった学校生活も徐々に慣れ、早くも一学期が終わろうとしています。

僕が中学校生活で印象に残っていることは四つあります。

一つめは、教科ごとに先生が違うことです。優しい先生、かっこいい先生、かわいい先生、パワフルな先生。いろんな先生がいてとても楽しいです。

二つ目は、教科の名前が違うことです。小学校のときは「図工」だったのが中学校になったら「美術」に大変身。「算数」も「数学」に大変身。少し素敵な響きになりました。

三つ目は、部活です。僕は絵が大好きなので「美術部」に入っています。絵を描いたり、切り絵をしたり。とても楽しくてうれしいです。

四つめは、想像以上に荻原先生がやさしいことです。僕のクラスの担任は荻原先生なんですけど、面白くて大好きです。もちろん、怒られたときも数えられないくらいあります。

また、六月の終わりには初めての期末テストがありました。僕も含め、皆「七十点以上取るぞ」「九十点取るぞ」

とはりきっていました。結果はほとんどの教科のクラス平均は五十点から七十点台でした。自分の勉強不足と、中学校の勉強の厳しさを知りました。夏休みには、一学期で学習した内容を振り返り、二学期からの新しい学習に備えたいです。

また、二学期には白鈴祭や合唱祭などの初めての行事も待っているのですが、二学期になっても、部活や委員会、勉強を頑張りたいです。

一学期の振り返り

二年三部 金井 紬

私は、一学期に色々なことを体験しました。

まずは、クラス替え。私の仲の良かった友だちは他クラスへ多く行ってしまい、クラス替えがあつてから学校に行く事が嫌でした。でも、今のクラスの友だちがたくさん私に話しかけてくれて、今では楽しく、学校生活を送ることができています。クラスの友だちには感謝しています。

このような環境の中で、私は様々なことにチャレンジしました。まずは、学年生徒会の給食委員会の責任者に立候補しました。その中で、「給食クラ

スマッチ」という企画を作ったのですが、私は表面上のことしか考えておらず、最終的にどうなるのか、どうすれば上手くいくのか、考えることができていませんでした。私が、もっと深くまで考えていれば良かったと、一つ新たな学びになりました。ここから、もう一度、課題点を見つめ直し、みんなでもっと深く考えた企画を二学期に実行していきたいです。

次に部活では、一年生が入ってきた。三年生のサポートをしながら、一年生に色々教えるのは大変でしたが、楽しかったです。野球部の一年生は、自分から話しかけてくれたり、指示を聞いたりしてくるので、とても嬉しかったです。三年生はいつも素早く、メリハリのある姿勢が格好良かったです。三年生から学んだことを私たちの代にも生かしていきたいです。

ところで、私の一学期の目標は、コミュニケーション能力の高い先輩になることでした。誰にでも話しかけられやすい先輩になるために、多くの人と話したりしました。すると違う小学校出身で、話をしたことも無い人に、話しかけてもらえました。そして、その後は、会うと手を振る仲になりました。初めての体験だったので、少し緊張してしまっただけ、嬉しかったです。

私は、一学期に生徒会、部活、生活面で色々な体験をしました。とても貴重だし、良い経験をしているなと感じます。良いことも悪いことも、その場で吸収し、受け止めて、今日よりも明日、もっと良い人間になれるように頑張りたいです。

一学期を振り返って

三年三部 五味 福道

僕は、一学期がんばったことが二つあります。

一つ目は勉強です。僕は、二回目のテストで一回目のテストよりも順位を落としてしまいます。なぜそうなるかと思うとき、一つ明確になった理由がありました。それは、「自分の得意な単元を伸ばそうとしない」ということです。例えば、社会の勉強しようとなったとき、僕は地理を勉強しようとしてしまいます。歴史が苦手だけど、無意識に地理を勉強しようとしてしまいます。そういう考えを変えて、苦手な単元を克服しようと思いました。そうしたら、苦手な理科の点が上がって、順位を落とさずに済みました。悪いせをなくそうとする努力は必要だと思いました。

二つ目は部活です。僕はサッカー部

です。三年生として最後のシーズンに入って、新しいことに挑戦してみようと考えていました。僕は、足元の技を極めようと思いました。動画を見て、試合で活用できそうだなと思った技は、家や部活の時間で練習をしました。僕は、土日の練習の時は、開始時間の一時間前に行くことを心掛けていました。その一時間で、出来る限りの多くの技に挑戦しました。リフティングの技にも挑戦しました。まずは比較的簡単な技から練習して、それができたら難しい技に挑戦するという計画のもとやったら、三か月で5つくらいの技を習得することができました。これによって、サッカーをしている時に自分を表現して、サッカーを楽しむことができるようになりました。

この二つのことを踏まえたらうで、二学期、三年生という自覚をもって、勉強面では今まで以上に勉強して順位を上げる、部活面ではいろんなことに挑戦する、リーダーシップを持つ、という目標を掲げて頑張りたいです。入試までもう八か月を切ってしまいました。今までよりもハイペースで勉強する必要があります。苦手な単元を繰り返し勉強して、受験対策をがんばりたいです。



【一学期終業式 校長講話】

これから四つのことをお話しします。最初に今発表してくれた三人の話。次に先日行ったアンケートについて。三つ目は一学期富士見中が大事にしてきたこと。最後に休みに向け皆さんに考えてもらいたいことを話します。

① 最初に一年一部の村上君は、中学という新しい環境に、興味いっぱいのお澄みきった目で新しい出会いや中学校生活の様々な活動に興味をもってスタートした自分を語ってくれました。この姿は、まわりの人にも前向きな空気を起こしてくれたに違いありません。

二年三部の金井さんは、クラス替えで新しい人間関係を築くために、自ら立候補してクラスの役に立つことに挑戦し、積極的に人とかわることで、自分を磨こうとしてきました。きっと金井さんの周りでは、何人もの人がそんな金井さんの姿に励まされていたと思います。

三年三部の五味君は、テストの結果から苦手な勉強を避けている自分に気づき、苦手だからこそ時間をかけることで大きな一歩が得られることを実感しました。その考え方は、大好きなサッカーの練習にも生かされています。苦手を克服するには、自分の好きなことに置き換えて考えると解決方法が見えてきそうですね。

② さて、先日皆さんから、富士見町と富士見中の自慢についてアンケートをとりました。結果は、配付したプリントの表を見てください。学年ごとに結果をまとめましたが、皆さんの富士見町、富士見中への愛着がとても感じられた結果でした。コメントも後読んでみてください。

③ さて、私から、一学期に富士見中が大事にしてきたことを三つ紹介します。

一つ目は「あいさつ」です。日頃廊下ですれ違っても、みなさんはとてもさわやかなあいさつをしてくれました。ですから学校の廊下を歩くと、とても気持ちよくなります。他にも登下校の横断歩道を渡ったあとに、多くのみなさんが止まってくれた車に振り返って礼をする姿は、富士見町では当然

り前の姿ですが、富士見町以外では実は当たり前ではありません。私は実家が長野市なので、長野市と富士見町を往復することが多いのですがいつも感じています。本郷小や境小、富士見小の子どもたちもよく挨拶しています。中学になっても小学校時代に培った素晴らしい価値をみなさんは続けてくれています。二、三年生のお手本があることはもちろんですが、特にその役割をつとめているのが一年生ですね。毎年一年生が繋げてくれていることとても大きいことです。

二つ目は「清掃」です。皆さんにお配りしたアンケート結果の裏を見てください。清掃している皆さんの姿です。この姿を少し遠目で見ると何か見えてきませんか？紙を左に九十度傾けて雑巾がけしている人を見てみてください。私には雑巾がけをしている人の姿が、漢字の「己」という字にみえます。己と向き合う清掃が富士見中の価値ある姿になっていきます。



三つ目は合唱です。先日のしらかば・すずらんコンテストは、一年ぶりの開催となりました。どのクラスもすばらしい取り組みでした。コロナ禍により続けてきた伝統に間が開いてしまいましたが、みなさんの歌声は時間という壁を乗り越えた素晴らしい価値ある姿でした。



④ 最後の話は二、三年生を例にして話をします。三年生はこれまでやってきたことが一つずつ終わっていく時期を迎えていますね。大会やコンクールなど物理的な終わりを迎えています。しかし、最終的に“ここで終わり”と決断するのは自分自身です。決断するには勇気がいりますが、自分で締めくくりを作って先へ進んでいくのも三年生です。二学期は様々な行事が控えています。一つ一つ精一杯楽しみながら全校をリードし、富士見中の大切な価値あるものを作り残していくてください。努力を惜しまなかった人が本番で楽しめる人です。そして二年生です。一学期に行った

キャリア教育の「なるには学習」ではプリントにあるような感想をよせてくれました。特にアンダーラインを引いた箇所を読んでください。

「今の自分でできること」「自分の可能性を限定しない」「行き着く先は、自分のためではなく、人の幸せのために働くもの」「自分のなりたいたい姿があれば、何にでもなれる」

二年生は、将来の職業の話だけにとどまらず、学習をとおして、今の自分自身を見つめることを大切に考えてくれました。一年生や三年生も自分の将来について、この休みにじっくり考えてみるというでしょう。

私はこの二年生の感想から、次のことが思い浮かびました。

「自分の価値は自分で決めることさ。つらくてお金がなくても、自分で自分を殺すことだけはしちやいけねえよ」

これは、幕末の志士 勝海舟という人のことばです。勝海舟は江戸幕府の役人で、新政府軍が江戸城を攻め落とそうとしたとき、戦を避け江戸城を無血開城に導き、戦いから江戸の人々の生活を守った人です。江戸っ子気質なので、ことばがべらんめえ調ですね。



このことばの中にある「自分を殺す」というのは、自分で自分の命を終わらせることをさしますが、もちろんそれは一番してはいけないことですが、それより他の意味として、自分の価値を「見殺し」にするという意味があります。

私はみなさん全員が価値がある存在だと思っています。そして、みなさんが、これから自分に自信がもて、自分の価値に出会えるよう願っています。急がず、あわてずに時間をかけ、自分と向き合っていくなかで自分の価値が見えてきます。明日から二十九日間の長い休みが始まります。二学期はどんな自分で行くか考えておきましょう。

最後に健康・安全には十分気を付け、くれぐれも事故には遭わないよう気をつけましょう。八月十九日には元気な姿で学校に来てくれることを待っています。

富士見町立富士見中学校

諏訪郡富士見町富士見四六五四番地

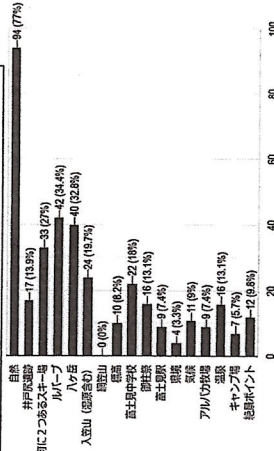
TEL 0266-62-2009

FAX 0266-62-7409

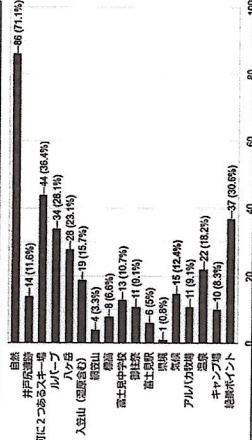
担当 両角 太

Q「あなたが選ぶ富士見町の自慢の場所はどこですか？」

1年生「自然」「ルバーブ」「ハケ岳」

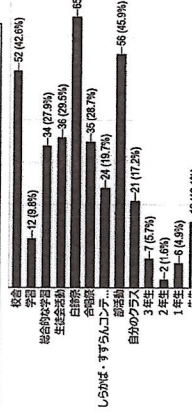


3年生「自然」「スキー場」「絶景ポイント」



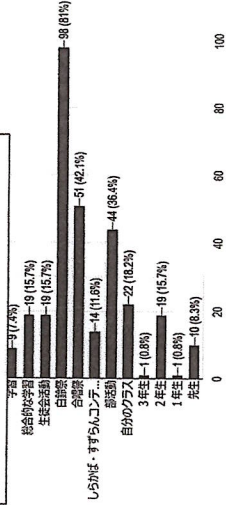
Q「あなたが選ぶ富士見町の自慢は何ですか？」

1年生「白鈴祭」「部活動」「校舎」

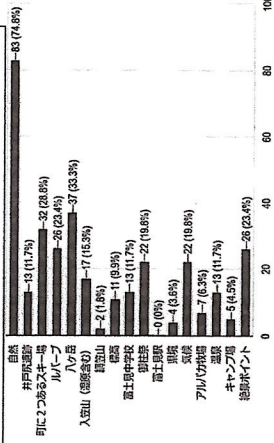


あなたが選ぶ富士見町の自慢は何ですか？3つ選択してください

3年生「白鈴祭」「校舎」「合唱祭」

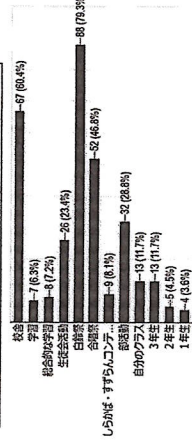


2年生「自然」「ハケ岳」「スキー場」



富士見町の自然は、皆さんの「自慢」であり、「誇り」であることがわかりました。そのほかにも、気候、温泉など観光の町としての富士見の財産が、皆さん自身の自慢であることがわかりました。日頃、何気ない私たちの住む町の環境を自覚することは、同時に富士見町の歴史が作った財産でもあります。

2年生「白鈴祭」「校舎」「合唱祭」



どの学年も、生徒会最大行事の「白鈴祭」を上げています。注目は、まだ経験していない1年生も楽しみにしていることです。中学時代になつた3回しか味わえない行事ですね。他にも皆さんが大切にしていることとして「校舎」「合唱祭」「部活動」など、富士見中の伝統を受け継いでいる様子がわかります。



己 ↑ 己

<2年生の感想>

○今の自分にできることをやっておくといいいことを教えてもらい、もっと考えをを広げていくことが大切だと思いました。この職業になりたいからこのことだけをやるのではなく、こんな道もあるんだという思いでいることが大切だと感じました。

○自分の可能性を限定しないという話がぐっときました。なるには学習で一人ひとり思っていることは違うけど、行き着く先は、自分のためではなく、人の幸せのために働くものなんだと感じた。」

○講師のお話を聞いて、職種っていうものには、あまりこだわらずに自由に自分のなりたいたい姿に合わせて職業に就いている方が多くいて、自分のなりたいたい姿があれば、何にでもなれるんだなあと感じました。」

「自分の価値は自分で決めることさ。つらくてお金がなくても、自分で自分を殺すことだけはしやいけねえよ」 [勝 海舟]